

? ダンボールシアターとは?

なゴミ
いぞ!
じゃ

役者や舞台、
小道具や衣装を
ダンボールで
作ってるんだよ!

■ダンボールの良い所

- ・世界各国どこでも手に入る
- ・軽い
- ・無限の可能性
- ・エコロジー&リーズナブル

■ダンボールの悪い所

- ・水に弱い
- ・なんだかかさばる
- ・ゴミかと思われる

ダンボールだけじゃなく
演劇にも注目な。

「誰かが見るとゴミ」でつくる。

代表 渡辺ゆほ

今回もまた、ダンボールまみれになりながら手のひらサイズのロボットを作りました。

私が切ったり貼ったりしないと、この子たちはゴミです。そんなことを積み重ねていくうちに物語ができます。これがたまたま好きなんだと思います。

世の中には出来合いの可愛いものでも溢れています。でも、わざわざ手をかけて形作り、息を吹き込んだダンボールたちは本当に愛おしいものです。

私はそれを皆さんに自慢したいだけなのかもしれません(笑)

昔から「不要不急」なことに関わってきましたが、そのことを認めずに来ました。しかしコロナのおかげで、自分のやっていることは不要不急だとかかなりはっきりしてしまったのです。これには戸惑いましたが、そのおかげで確信したことがあります。「そういうものこそ、人生に色を付けてくれるし、元気になるための足がかりになってくれる」ということ。

「誰かが見るとゴミ」で物語を作り、世界を目指そう。という話から立ち上がったダンボールシアター。私は今自信を持ってこの不要不急をオススメできます。ダンボールシアターがみんなのちょっとした足がかりになれば、こんなに嬉しいことはありません。

本日はご来場いただき、本当にありがとうございます。ごゆっくりと自慢の我が子たちを観て行ってください。



「生きている」と感じさせる。

操演 傍嶋史紀

前回『ペスト』は無観客公演でしたので、今回初めてお客様の前で操演します。ドキドキです。

役の気持ちになりながら、同時に客観的に生きて見えるように動かす。うまくいくと確かに「生きている」と感じます。大雑把に動かしてしまうと、途端に「人に動かされている人形」になってしまいます。そこがダンボールシアターの難しさであり、おもしろいところでもあります。

わたしはただでさえよく物を落とし、物をなくす人間です。なのに、このダンボールシアター。人形は多いし、手元は暗い。これは大変なことです!でも、わたしはみなさんに宣言します。ダンボールをひとつも落とさずなくさない!それどころか彼らがあたかも生きているかのように操演し!見事、最後まで演じ切ります!

クスッと笑えてあったかい気持ちになる、そんなダンボールシアター『ビッツ』を、しっかりとみなさんにお届けいたします。

応援&感想ツイート、
シェア協力お願いします。
終演後写真アップオッケーです。
ハッシュタグは

#ダンボールシアタービッツ

でお願いいたします。

今回の落書き。 作演出 オガの公

ロボットの形は、
最初は全然決まっていなくて、手書きの台本の隅っこに落書きをして行きます。

そのうちに、「あ、こいつはサムライか」
とか、「歯が必要だ」
とか、本当にじょじょに絵が固まってくるわけです。

これらは一部ですが、ボツった絵も愛しい。落書きが立体にされて行くのは、

不思議な心地よさです。
マジで。



<https://cardboard-theater.com>